

オリーブ山での説教

はじめに

- (1) 聖書フォーラム運動の本質とは何か。
 - ①マタ 24～25 章は、難解である。
 - ②黙示録の内容と連動している。
 - ③私たちは、教会史の文脈の中で今を吟味し、自らの使命を確認する必要がある。
 - ④世界がアメリカ中心に動いて来た 100 年間は、終わろうとしている。
 - *ロシア、中国の台頭
 - ⑤世界の関心は、イスラエルに向っている。
 - *1492 年 ユダヤ人のスペインからの追放。コロンブスによる新大陸の発見。
 - *アメリカは、ディアスポラのユダヤ人の避難地となった。
 - *1948 年 イスラエル建国
 - *2018 年 イスラエル建国 70 周年
 - *エルサレムが脚光を浴びている。
 - ⑥今は、来月何が起こるか分からない時代である。

- (2) 聖書フォーラム運動の 3 つの特徴
 - ①聖書研究運動
 - ②万人祭司運動
 - ③家の教会運動

- (3) 「人は投獄されても、神のことは鎖につながれていない」
 - ①これが使徒の働きを貫くテーマのひとつである。
 - ②「聖書のみ」は、宗教改革の原則のひとつである。
 - ③聖書は、解釈されて初めて権威を有するようになる。
 - ④解釈学の学びが重要である。
 - *字義通りの解釈
 - *ヘブル的解釈

- (4) 比喩的解釈の弊害
 - ①特に、預言解釈において比喩的解釈が行われてきた。
 - ②その結果、終末論が混乱した。
 - ③イスラエル論がほぼ消滅し、置換神学が主流となった。

(5) 今回は、オリーブ山での説教の字義通りに解釈に取り組むことにする。

メッセージの概略：3つの質問

Mat 24:3 イエスがオリーブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。「お話してください。いつ、そのようなことが起こるのでしょうか。あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」

(1) 弟子たちは、3つの質問をした。

*この時点での弟子たちの関心事は、「メシア的王国」である。

*オリーブ山の説教のテーマは、教会ではない。

*エルサレム、イスラエル、再臨、メシア的王国などがテーマである。

*質問したのは、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレの4人（マコ13:3）。

①「いつ、そのようなことが起こるのでしょうか」

*エルサレム（神殿）崩壊のしるしは何かという意味である。

*神殿の工事は、前20年から紀元64年まで続いた（ヨハ2:18~20参照）。

*イエスがオリーブ山での説教をした年は、紀元30年である。

*弟子たちは、巨大な石に関心を示した（8~10トンもある）。

*巨大な石垣が崩れるというあり得ないことが起こる。

②「あなたが来られる時には、どんな前兆があるのでしょうか」

*再臨のしるしは何か。

*メシア的王国が成就する前の超自然的なしるしとは何かという意味である。

*初臨のメシアは預言者、昇天のメシアは大祭司、再臨のメシアは王である。

③「世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか」

*世の終わりのしるしは何か。

*「世の終わり」とは、世界の終わりのことではない。

*ユダヤ人たちは、「この世」（今の時代）と「来る世」（メシア的王国）を分けて考えていた。

(2) イエスの回答は、質問の順番とは異なる。③①②の順番である。

③世の終わりのしるしは何か。

①エルサレム崩壊のしるしは何か。

*この質問への回答は、マタイではなく、ルカ21:20~24にある。

②再臨のしるしは何か。

I. 世の終わりのしるし (マタ 24:4~8 節)

1. 4~6 節

Mat 24:4 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。

Mat 24:5 わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。

Mat 24:6 また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たものではありません。

*世の終わりのしるしではないことが2つある。

*これは、教会時代の特徴であるので、惑わされてはならない。

(1) 偽キリストの出現

①ユダヤ人の歴史上、最初にメシア宣言をしたのはイエスである。

②次に、バル・コクバが出た (紀元 132 年)。

*彼は、偽キリストの最初の人物となった。

(2) 戦争の勃発

①「戦争のことや、戦争のうわさ」とは、地域戦争のことである。

②終末に関係しているのは、世界戦争である。

③教会時代を通じて、戦争は起こり続ける。

2. 7~8 節

Mat 24:7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。

Mat 24:8 しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。

(1) 世界戦争、飢饉、地震

①「民族は民族に、国は国に敵対して」(ラビ用語)とは、世界戦争のことである。

*第一次世界大戦は、シオニズム運動を生んだ。

*第二次世界大戦は、イスラエルの建国をもたらした。

②飢饉と地震は、世界中に広がっている。

③「そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです」

*今の世が終わり新しい世になるための陣痛の初めである。

*メシア的王国が出現する前の苦しみを「陣痛」と呼ぶのはラビ的用語。

*初臨と再臨に挟まれた時代の終わりに患難が始まる。

II. エルサレム崩壊のしるし (ルカ 21 : 20~24)

1. 20 節

Luk 21:20 しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。

- (1) エルサレムがローマ軍によって包囲されることが、崩壊のしるしである。
 - ①ユダヤ戦争とは、66年から74年まで行われたユダヤ人による対ローマ戦争。
- (2) この預言が成就した歴史的経緯
 - ①67年 ヴェスパシアヌス率いるローマ軍はエルサレムを包囲する。
 - ②69年 4人のローマ人が次々と皇帝に即位 (4 皇帝の年)。
 - *ゲルマニアで反乱が勃発し、ローマは大混乱に陥った。
 - *ウェスパシアヌスはエルサレム包囲網を解き、ローマに帰国する。
 - *12月 ヴェスパシアヌスが皇帝に即位。
 - *息子のティトゥスを将軍としてエルサレムに向かわせた。
 - ③70年 エルサレム陥落

2. 21~22 節

Luk 21:21 そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ちのきなさい。いなかにいる者たちは、都に入ってはいけません。

Luk 21:22 これは、書かれているすべてのことが成就する報復の日だからです。

- (1) ヴェスパシアヌスが帰国した際に、包囲網が解かれた。
 - ①エルサレムを逃れるチャンスはこの時しかない。
 - ②メシアニックジャーたちは、イエスの教えをよく記憶していた。
 - ③約2万人のメシアニックジャーがエルサレムから逃れた。
 - ④それ以外の地から8万人のメシアニックジャーが合流した。
 - ⑤彼らは、ガリラヤ地方のペラという町に逃亡した (デカポリスのひとつ)。

3. 23~24 節

Luk 21:23 その日、哀れなのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。この地に大きな苦難が臨み、この民に御怒りが臨むからです。

Luk 21:24 人々は、剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれ、異邦人の時の終わるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。

- (1) 70年に110万人のユダヤ人が滅びたと言われている。
 - ①メシアニックジャーたちは、この裁きを免れた。
 - *彼らは、ヨルダン川の東の地、ペラに逃げた。

- ②その結果、メシアニックジューと他のユダヤ人たちの間に亀裂が生じた。
 - *ユダヤ人たちは、エルサレムは滅びないと信じていた。
 - *メシアニックジューたちは、イエスのことばを信じた。
- ③「異邦人の時」とは、異邦人がエルサレムを支配している期間を指す言葉。
 - *異邦人の時は、バビロン捕囚（前586年）から始まり、再臨まで続く。
- ④異邦人に関する3つのキーワード
 - *「異邦人の富」 ロマ11:12
 - *「異邦人の完成のなる時」 ロマ11:25
 - *「異邦人の時」 ルカ21:24

III. 再臨のしるし (マタ24:9~42)

1. 迫害の勃発 (9~10節)

Mat 24:9 そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。

Mat 24:10 また、そのときは、人々が大ぜいつまずき、互いに裏切り、憎み合います。

*マタ24:9~14 大患難時代の前半の3年半

*マタ24:15~28 大患難時代の後半3年半

*この箇所には、教会は登場しない（預言的には携挙が起こっている）。

(1) 「そのとき」

- ①「τὸτε» (ギリシア語)、「Then」(KJV、ASV)、「それから」(現代訳)
- ②9節から大患難時代の記述に入る。

(2) 聖徒たちに対する迫害が起こり、多くの者が殉教の死を遂げる。

- ①世界の諸国が、聖徒たちを迫害する。
- ②多くの者が、迫害を逃れようとして、信仰から離れる。
- ③家族同士でも、相手を密告し、憎み合う。

2. 偽預言者たちの出現 (11節)

Mat 24:11 また、にせ預言者が多く起こって、多くの人々を惑わします。

(1) 偽預言者と偽キリストは違う。

- ①彼らは、自分たちが神を代弁する者であると主張する。
- ②彼らの預言は成就しない。
- ③彼らは、人々を真の神から遠ざける。

(2) 大患難時代は、基本的にはユダヤ人の苦しみの時である。

- ①偽預言者は、イスラエルを欺く者たちである。
- ②偽教師は、教会を欺く者たちである。

3. 罪の増加 (12 節)

Mat 24:12 不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。

- (1) 罪が増加し、人々は愛に反する行いをするようになる。
 - ①罪の広がりや抑制する者(教会)がいなくなるから。

4. 大患難時代を生き延びるユダヤ人たち (13 節)

Mat 24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。

- (1) 大患難時代を生き延びたユダヤ人たちは、民族的救いを経験するようになる。
 - ①生き延びたから救われるという意味ではない。
 - ②救いは常に恵みと信仰による。信仰の内容は、「福音の三要素」である。

5. 世界宣教 (14 節)

Mat 24:14 この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。

- (1) 大患難時代の前半の3年半の間に、世界宣教が行われる。
 - ①迫害はあるが、希望もあるのである。
 - ②「御国の福音」が伝えられる。
 - *これは、バプテスマのヨハネとイエスが最初に伝えた福音と同じである。
 - *メシア的王国をもたらされる方として、イエスを信じること。
 - *教会時代に私たちが伝える福音とは、少し異なる。

6. 「荒らす憎むべき者」の出現 (15 節)

Mat 24:15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)

- (1) 「荒らす憎むべき者」の出現が、大患難時代が後半に入るしるしである。
 - ①「読者はよく読み取るように」
 - ②その意味を知るためには、ダニエル書の預言から学ぶようにという意味である。

(2) ダニ 9:27

Dan 9:27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふり

かかる。」

- ①反キリストはイスラエルと7年間の契約（平和条約）を結ぶ。
- ②3年半が経った時点で、彼は条約を破棄する。
- ③祭儀を止めさせる。大患難時代の後半に入る時点では、第3神殿が建っている。
- ④反キリストは至聖所に座り、自らを神だと宣言する（2テサ2:3~4参照）。
- ⑤反キリストを礼拝しない者は、殺される。
- ⑥しかし、反キリストは最後に滅ぼされる。

7. 山への逃避（16~21節）

Mat 24:16 そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。

Mat 24:17 屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。

Mat 24:18 畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。

Mat 24:19 だがその日、哀れなのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。

Mat 24:20 ただ、あなたがたの逃げるのが、冬や安息日にならぬよう祈りなさい。

Mat 24:21 そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。

(1) 「荒らす憎むべき者」の出現は、ユダヤ人にとっては「しるし」である。

- ①ユダヤ人たちは、大急ぎで逃げる必要がある。
- ②「山」（複数形）とは、ヨルダン川東岸の山地である。
- ③持ち物に固執して、時間を無駄にしてはならない。

(2) 予想される困難

- ①身重の女と乳飲み子を持つ女は、哀れである。
- ②冬に逃げるのは、辛いことである（雨季に当たる）。
- ③安息日に逃げるのも、辛いことである（移動手段がなくなる）。
- ④後にも先にも、このような苦難はない。

8. 限定された日数（22節）

Mat 24:22 もし、その日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、選ばれた者のために、その日数は少なくされます。

(1) 患難の日数は、突如断ち切られる。

- ①そうでなければ、救われる者はひとりもいなくなる。
- ②ダニ9:27によれば、それは半週（3年半）の間続く。

*3年半=1260日

(2) ダニ 12 : 11~12

Dan 12:11 常供のささげ物が取り除かれ、荒らす忌むべきものが据えられる時から千二百九十日がある。

Dan 12:12 幸いなことよ。忍んで待ち、千三百三十五日に達する者は。

①1290日-1260日 = 30日

*偶像を除去するために必要な日数

②1335日-1260日 = 75日

*大患難時代が終わってからメシア的王国が設立されるまでの期間である。

③患難の日数が限られているのは、迫害を受ける者には大きな励ましとなる。

9. 偽キリストと偽預言者の出現 (23~27 節)

(1) 23~24 節

Mat 24:23 そのとき、『そら、キリストがここにいる』とか、『そこにいる』とか言う者があっても、信じてはいけません。

Mat 24:24 にせキリスト、にせ預言者たちが現れて、できれば選民をも惑わそうとして、大きなしるしや不思議なことをして見せます。

①キリストが密かに再臨されたという噂を信じてはならない。

*真剣に再臨を待っている者(信者になったユダヤ人)ほど、騙されやすい。

②偽キリストや偽預言者たちに惑わされてはならない。

*その方法は、大きなしるしや不思議である。

*しるしや不思議は、必ずしも神からのものとは言えない。

(2) 25~27 節

Mat 24:25 さあ、わたしは、あなたがたに前もって話しました。

Mat 24:26 だから、たとい、『そら、荒野にいらっしゃる』と言っても、飛び出して行ってはいけません。『そら、へやにいらっしゃる』と聞いても、信じてはいけません。

Mat 24:27 人の子の来るのは、いなくまが東から出て、西にひらめくように、ちょうどそのように来るのです。

①ユダヤ人たちは、隠れている山地から飛び出して行ってはならない。

②メシアの再臨は、誰もが認識できる形で起こる。

③「いなくまが東から出て、西にひらめくように」

*突然、見逃すことのないような形で起こる。

10. 再臨の場所 (28 節)

Mat 24:28 死体のある所には、はげたかが集まります。

(1) 同じ表現が、ルカ 17 : 37 に出ていた。

Luk 17:37 弟子たちは答えて言った。「主よ。どこですか。」主は言われた。「死体のある所、そこに、はげたかも集まります。」

(2) イスラエルの民は、異邦人の軍勢に取り囲まれる。

① 「死体」とは、山地に隠れているイスラエルの民である。

② 「はげたか」とは、異邦人の軍勢である。

③ その場所は、ボツラ（現在のヨルダンにあるペトラ）である。

(3) ミカ 2 : 12~13

Mic 2:12 ヤコブよ。／わたしはあなたをことごとく必ず集める。／わたしはイスラエルの残りの者を必ず集める。／わたしは彼らを、おりの中の羊のように、／牧場の中の群れのように一つに集める。／こうして人々のざわめきが起ころう。

Mic 2:13 打ち破る者は、／彼らの先頭に立って上って行き、／彼らは門を打ち破って進んで行き、／そこを出て行く。／彼らの王は彼らの前を進み、／【主】が彼らの真っ先に進まれる。

① 「おりの中の羊」→「ボツラの羊」（文語訳）

(4) イザ 34 : 5~6

Isa 34:5 天ではわたしの剣に血がしみ込んでいる。／見よ。これがエドムの上に下り、／わたしが聖絶すると定めた民の上を下るからだ。

Isa 34:6 【主】の剣は血で満ち、脂肪で肥えている。／子羊ややぎの血と、／雄羊の腎臓の脂肪で肥えている。／【主】がボツラでいけにえをほふり、／エドムの地で大虐殺をされるからだ。

(5) イザ 63 : 1~2

Isa 63:1 「エドムから来る者、／ボツラから深紅の衣を着て来るこの者は、だれか。／その着物には威光があり、／大いなる力をもって進んで来るこの者は。」／「正義を語り、／救うに力強い者、それがわたしだ。」

Isa 63:2 「なぜ、あなたの着物は赤く、／あなたの衣は酒ぶねを踏む者のようなのか。」

(6) 黙 12 : 6

Rev 12:6 女は荒野に逃げた。そこには、千二百六十日の間彼女を養うために、神によって備えられた場所があった。

11. 再臨のしるし (29~30 節)

(1) 29 節

Mat 24:29 **だが、これらの日の苦難に続いてすぐに、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。**

①大患難時代の最後に起こることが預言されている。

②再臨のしるしは、天体の異変である。

③太陽、月、星は光を放たなくなる。

*「星は天から落ち」は、星が光を放たなくなるという意味であろう。

④これらの言葉は、字義通りに解釈すべきである。

*イエスが十字架にかかった時に、全地は暗くなった。

⑤ヨエ 2 : 30~31

Joe 2:30 わたしは天と地に、不思議なしるしを現す。／血と火と煙の柱である。

Joe 2:31 **【主】**の大いなる恐るべき日が来る前に、／太陽はやみとなり、月は血に変わる。

(2) 30 節

Mat 24:30 **そのとき、人の子のしるしが天に現れます。すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです。**

①「人の子のしるし」とは、シャカイナグローリーである。

②シャカイナグローリーが暗闇をかき消す。

③初臨の際にもシャカイナグローリーが輝いた。

*再臨のしるしとなるシャカイナグローリーの方が、規模が大きい。

④地上のすべての国民が、メシアの再臨を目撃する。

*未信者にとっては、悲しみの時となる。

⑤ダニ 7 : 13

Dan 7:13 私がまた、夜の幻を見ていると、／見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、／年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。

12. イスラエルの回復 (31 節)

Mat 24:31 **人の子は大きなラッパの響きとともに、御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで、四方からその選びの民を集めます。**

①イスラエルは約束の地に集められる。

②イスラエルの回復に関する旧約聖書の預言を1節にまとめたもの。

③イザ 27 : 12~13

Isa 27:12 その日、／**【主】**はユーフラテス川からエジプト川までの／穀物の穂を打ち落とされる。／イスラエルの子らよ。／あなたがたは、ひとりひとり拾い上げられる。

Isa 27:13 その日、大きな角笛が鳴り渡り、／アッシリヤの地に失われていた者や、／エジブ

トの地に散らされていた者たちが来て、／エルサレムの聖なる山で、【主】を礼拝する。

*角笛（ラッパ）が鳴り渡る。

④マコ 13 : 27

Mar 13:27 そのとき、人の子は、御使いたちを送り、地の果てから天の果てまで、四方からその選びの民を集めます。

*「地の果て」から集められてくるのは、大患難時代を生き延びたユダヤ人。

・彼らは、大患難時代の間、迫害のために世界各地に散らされている。

*「天の果て」から集められてくるのは、旧約時代の聖徒たち。

*生きているユダヤ人と復活したユダヤ人が、ともにメシア的王国に住む。

13. いちじくの木のとえ (32~35 節)

(1) 32~33 節

Mat 24:32 いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかくなって、葉が出て来ると、夏の近いことがわかります。

Mat 24:33 そのように、これらのことのすべてを見たら、あなたがたは、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。

①いちじくの木は、この文脈ではイスラエルのことではない。

*「いちじくの木や、すべての木を見なさい」(ルカ 21 : 29)

*葉が出て来ると、夏が近いことが分かる。

②「これらのことのすべてを見たら」とは、マタ 24 : 4~28 の内容である。

*つまり、大患難時代のことである。

*この預言はまだ成就していない。

③ユダヤ人たちにとって重要なのは、「荒らす憎むべき者」の出現である。

④それから再臨までは3年半である。

(2) 34~35 節

Mat 24:34 まことに、あなたがたに告げます。これらのことが全部起こってしまうまでは、この時代は過ぎ去りません。

Mat 24:35 この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。

①イエスのこのことばは、イエスと同時代のユダヤ人に対するものではない。

*彼らは不信仰な世代であり、御国は彼らから取り去られた(マタ 21 : 43)。

*彼らもまた神の裁きを経験する。

②イエスのことばは、大患難時代を通過するユダヤ人への励ましである。

*大患難時代の後半は3年半であることが分かるので、忍耐できる。

③イエスのことばは、信用できる。

14. 携挙 (36～42 節)

(1) 36 節

Mat 24:36 ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。

①「ただし」(but, however) は、ギリシア語で「peri de」である。

②これは、話題を変える時の言葉である。

③この聖句から、別のテーマに移行している。携挙というテーマである。

④携挙が大患難時代の後に起こるということではない。

*イエスは、出来事を時間順に教えているわけではない。

⑥携挙の時は、誰も知らない。

⑦再臨の時は、分かる。

*反キリストとイスラエルが契約を結んでから7年後

*「荒らす憎むべき者」が現れてから3年半後

(2) 37～39 節

Mat 24:37 人の子が来るのは、ちょうど、ノアの日のようだからです。

Mat 24:38 洪水前の日々は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は、飲んだり、食べたり、めとったり、とついたりしていました。

Mat 24:39 そして、洪水が来てすべての物をさらってしまうまで、彼らはわからなかったのです。人の子が来るのも、そのとおりです。

①携挙は突然起こる。

②ノアの洪水が来る直前の状況が例に上げられる。

*人々は、なんの疑いもなく日常生活を送っていた。

③携挙も、人々がなんの疑いもなく日常生活を送っている時にやって来る。

④メシアの再臨は、大患難時代の後にやって来る。これが大きな違いである。

(3) 40～42 節

Mat 24:40 そのとき、畑にふたりいると、ひとりを取られ、ひとりが残されます。

Mat 24:41 ふたりの女が臼をひいていると、ひとりを取られ、ひとりが残されます。

Mat 24:42 だから、目をさましていなさい。あなたがたは、自分の主がいつ来られるか、知らないからです。

①信者と未信者が分離される。

②信者は天に上げられ、未信者は地上に残される。

③地上に残された者は、大患難時代を通過する。

④「目をさましていなさい」とは、教会時代の信者に対する勧めである。

結論：字義通りの解釈に基づく終末論

- (1) 携挙
- (2) 大患難時代（前半3年半、後半3年半）
- (3) 大患難時代においても世界宣教が行われる。
- (4) 大患難時代の終わりにユダヤ人の民族的救いが起こる。
- (5) メシアの再臨
- (6) 千年王国の成就